

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600094		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	帯広けいせい苑グループホーム はるか(1階)		
所在地	帯広市西18条南2丁目6-4		
自己評価作成日	平成25年10月20日	評価結果市町村受理日	平成26年1月 7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0194600094-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成25年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各専門職、関係医療機関等と協力し、今の状態に対し必要なケアを見極め、対応させて頂き、健康に過ごして頂く事のほか、同じグループホームの入居者同士、また、併設の施設をご利用の方との交流が盛んに行われる事で、新たな馴染みの関係の構築を目指しています。
・月に1度、「個別の日」という日を設け、個々の嗜好に沿ったおやつ作りや、手芸など室内での取り組みや、外食・温泉等外出の提供に努めている。その中でご家族にも協力を求め、入居者が家族と共に過ごす事が出来る時間の提供や、一時帰宅等も実施しているところである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の付近は、商業施設や病院、銀行が集積した静かな住宅地で、恵まれた環境である。建物1階・2階共に西側一面の開口部は明るくゆったりしており、小規模多機能ホームと居宅介護支援事業所も併設されていて、行事等を通じて利用者同士の交流があり、馴染みの関係を作ることができる。年2回の災害訓練に、消防署のほか地域住民や運営推進会議委員も参加して、災害時の連携・協力を得ている。行政や地域も参加して実施した「徘徊防止訓練」で、問題点と課題が具体的に分かり、これを基に改善点を話し合っって大きな成果を挙げた。多岐にわたって町内会との連携による活動がなされて、事業所理念である地域密着の実が挙げられている。おむつ「ゼロ運動」に取り組んで着実に成果を得ている。トイレの三面に取り付けた手すりは利用者に安心感を与え、現実に転倒防止に繋がっている。職員の丁寧な声掛けと生き活きた行動が、利用者の活発な反応を引き出している。地域密着を意識した事業所理念を玄関に掲示して、会議の都度繰り返し確認をして共有し、ケアに活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

ナルク北海道福祉調査センター

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・施設理念を踏まえた事業計画を作成し、その意を共有しつつ事業の実践を行っている。また、施設理念をより実際の業務に浸透させていく為、法人施設全体で研修会を行っている。	地域密着型を意識した事業所理念を玄関壁に掲げている。職員には会議の都度確認浸透を図っている。現場の責任者たるリーダーは、常に気付きメモを活用し職員に啓発している。言葉掛け態度に配慮している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に所属し、町内会行事に参加している(古紙回収等)はるかで行っている行事、敬老会・感謝祭等では町内の多数の方に参加頂き交流している。避難訓練にも参加頂いている。	町内会の花見、懇親会や競馬場花壇清掃に参加し、事業所の敬老会、感謝祭へ地域からの参加・交流がある。幼稚園児や高校生が来訪し交流している。町内会打合せに事業所の部屋を提供し、地域の家族介護の相談に対応するなど地域と密接な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議にて地域包括支援センターや老人会、町内会等と情報交換を行いながら、地域の現状や施設が地域に出来る事を共有している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議で情報交換を行い、事業計画、防火活動、利用者の生活の様子報告を行っている。生活へのアドバイスや助言を取り入れている。	家族・町内会・地域包括支援センター・市民団体・民生委員等が参加して、年6回開催している。事業報告と事故報告等のほか、徘徊対策などを取り上げて、意見交換を行い、その結果をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員としてに市地域包括支援センター社会福祉士が参加している、また施設広報誌を市介護保険課に送付する、市消防との地域合同防災訓練の実施、徘徊訓練を市職員も交え行っている。	徘徊模擬訓練は、事業所が企画して、帯広市が呼びかけ、両者の参加・連携の下で開催された。帯広市主催新人職員研修に6名参加して協力関係を築いている、	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設でマニュアルを作成し全職員に配布しています。身体拘束に当たらないよう対応を検証し朝のミーティングや各会議等を利用し上司を交え確認を行っている。	職員は、身体拘束が尊厳に対する重大な侵害に当たることを理解して共有している。直接の身体拘束はもとより言葉による拘束にも理解している。職員の対応をお互いにチェックし、気付きメモの活用により確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員にマニュアルを配布し虐待防止の周知を行っています。日常の介護の中で虐待が無い職員間でのケアの状況の確認や上司への報告、事例検討会を行い全職員での虐待防止の取り組みを行っている。		

帯広けいせい苑グループホーム はるか(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	GH利用者に対して成年後見人を選定し、支援いただいている。市民後見の実習受け入れを通して制度を学ぶ機会を取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書、個人情報保護等について、ご本人、御家族に十分な説明を行い、理解同意を頂いてから契約を行っている。定期的に内容の検討を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表に参加して頂き各行事に参加頂き意見を頂いている。又運営に関する課題等にも意見を頂き取り入れている。	運営推進会議や行事に家族を招いて、色々なやり取りの中で、意見をもらっている。来訪できない家族には定期的に電話をかけて、利用者や事業所の状況を知らせながら、意見や希望等を聞き取っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各事業所ごとの会議や役職会議、統括会議を行いそれぞれ会議で得た情報の伝達、状況把握を行い、運営に関わる提案の機会を持ち検討を行っている。	管理者は年に3回程、職員個人面接をしている。通常はリーダーの気付きメモが大きな情報源である。担当者の見解、チーム検討、職員会議等を通じて意見情報を汲み上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しスタッフ個々の目標達成の支援のために面接を行い日常的なサポートを行っている。研修やOJTを活かし事業所全体で取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度を導入し、日常業務を通じスタッフ個々に合った育成を行っています。又、年間事業計画に施設内研修や施設外研修を計画しており順次職員が研修を受けている。OJT取り組み個々のレベルアップを目指している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研修、小規模多機能研修、ケアマネ研修に参加し、ネットワーク作りや知識向上の機会を持っています。又、はるかでの行事の際には他グループホームや包括支援センターにも協力を頂き交流している。。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用前に必ず面接を行い、今の生活で困っている事、これからの希望等を伺い知り、利用後の生活に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時や契約の時等に、密に話ができる時間を設け、関係づくりの足掛かりとして活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族、互いの生活は今どのような状況かの把握と、今何が必要かをチーム職員はもとより、全職員で考え、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やおやつメニュー、レク等、可能な限り利用者自身に選択をして頂く環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調面を共有する事だけに留まらず、本人の生活に対する意向を代弁する事や、日々の生活状況をお伝えする事。事業所の行事等と一緒に楽しみます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人といった人はもちろん、よく通ったお店など、社会資源に関しても継続的に利用できるように支援に努めている。	馴染みの感情は活気ある生活に不可欠と考えて、毎月クラス会に参加する利用者の準備や服装に配慮することで支援し、愛犬に会いたがる利用者の一時的帰宅や、お寿司の好きな利用者に個別に同行支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団や少人数での外出や、楽しみを通じて関係調整に努めている。また、同一ホールに留まらず、併設施設等を利用している方との交流も盛んに行われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状の急変や長期入院のために、サービス利用が途絶えた際であっても、本人、家族の希望に近い形のサービスの提案や申請支援に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回面接から入居生活を送る中で、直接的に本人、家族から聞き取る事、困難な場合であっても、過去、現在のモニタリングやアセスメントをもとに意向や思いの把握に努めている。	個別にきめ細やかな対応を心がけて、職員の言葉づかひの向上を目指している。利用者と話をする機会を多く設けて、利用者の思いや意向を聞きだすように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、これまでの生活の様子をお話して頂ける範囲でお聞きし、入所後も随時情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況に関しては、個別の様子を記録に残し、定期的なモニタリングで振り返る事はもちろん、チーム会議にて共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のモニタリングやチーム会議を課題の抽出と検討の場とし、本人の意向はもとより、家族や他職種からの意見も取り入れた介護計画の作成に努めている。	利用者毎の担当制で、担当が利用者、家族の第一の情報把握をして、更に職員共有情報を素材として、チーム会議で検討して判断しながら作成している。6ヶ月毎に見直し、変更あるときは家族の同意を得て確認印を得ている。変化がなくても個別通信で変化なきことを知らせている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の特記やプランの実施状況を記す個別記録や、ホールで起こる全ての事が網羅され、職員間の共有に使用するチームノートを利用し、状態変化等の把握と共有、プランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族を含めた一人一人のニーズに対し、どうすればそれを可能にできるかを考え対応している。また、併設の多機能ホームや、居宅支援事業所と協力しながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、事業所、互いが行事や会合へ参加し合う事で、交流や互いの役割を確認する事等、この地域を共に考えていける関係作りに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医療機関との関係も考慮しつつ、本人と家族が納得のできる適切な医療を受けられるよう、医療機関の移行の提案等、支援をしている。	受診は本人・家族の希望を最優先に対応している。かかりつけ医への受診も、努めて職員が同行して、事業所における様子や身体状況の説明をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調変化、通院後の通院記録にて情報を共有している。状態変化があった場合には、すぐに看護職員に報告、相談し、休日であっても電話にて指示を仰ぐ体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での様子を伝え、入院後も面会やご家族との電話で状況把握に努めている。ムンテラにも必ず参加し、退院後も緊急時に備えた関係作りを心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し、医行為が増えてしまった場合、対応が難しい事を説明させて頂いているが、出来る限り今ある馴染みの環境で暮らし続けられるよう家族、医療機関と連携し、支援している。	契約時に「重度化した場合の指針」を示して説明し、同意をもらっている。重度化した場合も、医療行為の必要がなければ、住み慣れた事業所で最後を迎えさせたいとの家族の希望に沿うよう、家族や医療機関と連携して支援する用意がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しており、それをもとに対応していく事としているが、応急手当や初期対応に関しては、講習は受けているものの、実践できるかが課題。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。また日頃より地域の方と関わりを持ち深めながら災害時のご協力とご理解を頂いている。	夜間も想定して、消防署、地域、運営推進委員が参加して年2回避難訓練を実施している。消防署への直接電話装置、職員間の連絡網が整備されている。災害に備えて毛布、おむつ、発電機、電池電灯器具などを用意している。	具体的な状況を設定して災害訓練を行い、その経験をもとに、地域住民に災害時の役割分担を予め依頼し、共有することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分らしさを生活の中で出して頂くため、職員の言葉掛け、言葉づかいに限ると考え、丁寧な対応を心掛けている。	尊厳に配慮した言葉づかいに努め、利用者の立場に立った介助になるよう職員同士が注意あっている。そのためには利用者ひとりひとりの性格や生活歴、意向を汲み取ることが大事だと考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時々で何を考えているのか、表出するのが難しい方であるならば、選択肢を用意する等し、自己決定の尊重に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体、個人と日課は存在するが、細かく定めすぎる事はせず、その時々、瞬間の希望に少しでも応じられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容を利用したり、理容外出を行っている。日常ではお化粧や顔そり等の支援も実施している。		

帯広けいせい苑グループホーム はるか(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けやおやつ作り、米とぎ等、利用者一人一人が役割を持って行っている。食後は職員と一緒に下膳、食器洗いにも取り組んでいる。	食材は一括供給されるが、その中で事業所及び利用者の好みを基本に調整している。配膳、後片付け、食器洗いなどを一緒にしている。可能な限り職員と一緒に会話をしながら食事をしている。毎月一回個別の日を設定して、その人のおよつ希望を叶えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500mlを目標水分とし、職員同士声を掛け合いながらその方に応じた水分形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ、誘導を行っている。往診に来て頂いている歯科医、衛生士の助言のもと、個々の状態に合わせたケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツゼロに取り組み、排泄リズムや尿量を把握しながらトイレ誘導を行っている。パットの種類に関しても、昼夜変える等の工夫をしている。	個人毎の排泄サインを職員は共有し、タイミングを見はからって誘導し、排泄の自立を支援している。失敗時もプライバシーに配慮し、他人に気付かれないうようにしている。「おむつゼロ運動」を掲げて努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量と排便の有無を毎日チェックし、極力下剤は使用せず、朝に牛乳の摂取、おやつにヨーグルトや運動(歩行)を働きかける事で予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を定めず、希望や体調に合わせて週2～3回実施している。	楽しい時間になるように、利用者の要望や体調に合わせて入浴してもらい、嫌がる利用者には間を置いたり、声掛けの職員を代えたりして工夫している。重度者の入浴には、特殊入浴室を設けて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は可能な限り離床して頂き、夜に安眠というリズムを意識しているが、日中でも傾眠される方、疲れや気分影響が出てしまう方には、居室で横になって頂く時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋と往診記録(通院記録)をまとめたファイルを活用し、把握に努めている。看護師や医療機関と相談をしながら、服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事やレク等、施設内に留まらず、楽しみを求め、外出の機会を作っている。一人一人に個別の日を設け、その方に合わせた楽しみを提供できるよう心がけている。		

帯広けいせい苑グループホーム はるか(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に楽しみを持てるよう、お一人お一人に、個別の日という機会を用意し、個別での活動を実施している。また、逆の集団、少人数にて、共通の好きな物でグループを作り外出を楽しむ事など、形にとらわれない方法をとっている。	帯広競馬場が近いので見物に行き、大変利用者には好評なので継続した企画となっている。毎月一回「個別の日」を設けて利用者の外出先の意向を探り出して実現させている。また定期的に秋の紅葉まつりなど季節を感じさせるドライブを企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金はさせて頂いていない。通院や個々の買い物等、全て職員が立替えて行っている。お金に関して不安を抱く方もいらっしゃるため、事前に頂いているという事を職員が共通してお伝えし、ご納得頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や馴染みの人との関係を生活の中で感じられるよう、面会や来所が無い期間が長い時には、電話や手紙、現在はメール等を用いて、関係継続に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の体調に影響せぬよう、湿度や温度調節、換気には配慮している。しかしながら課題として、ホールの掲示物に関してはなかなか更新が行われておらず、季節感も乏しい事があげられる。	西側一面は開口部で明るく、夏は西日、冬季は過乾燥に注意して、カーテンの利用や加湿器設置で対応している。壁には大相撲の星取表を貼り、季節に応じた作品、観葉植物を飾り、利用者にとって居心地良い居間になるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろぎのリビング空間と、食卓テーブルの空間に分けており、双方個々に決まった定位置が存在する。利用者同士の関係性を考慮し、チーム会議等で随時検討し、誰もが気持ちよく過ごせる居場所の提供に努めている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や慣れ親しんだ物が存在する方もいらっしゃいますが、全ての方に配慮が行き届いていない。共用スペース同様、掲示物、写真の更新、そして、本人が長年慣れ親しんできた物などの情報収集が不足している。	好みで仏壇の持込や家族の写真や新聞記事を貼っている。個人ごとにベッドの高さを調整し、ベッドからの転倒に備えて床にマットを補充するなど工夫している。ベッド位置決定を利用者や家族の希望に添って行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力に応じた生活を実現できるよう空間のレイアウトには工夫をし、必要に応じて一人用テーブルをご用意する事や、家具を買い直す(足す)事も検討し、実施している。		